

平成28年度ハートフル奨学金

奨学生たちが成果を報告

3月22日、平成28年度ハートフル奨学金奨学生（高校3年生）による振り返り面談と、市長への表敬訪問がありました。

奨学金の使いみちや今後の進路について、なかなか雰囲気の中で面談が行われました。奨学生と保護者からは「税金を奨学金として使わせていただいたので、成績が下がらないように頑張りました」「大学受験料や通信教育料、就職に必要な準備に使うことができました」等、多くの感謝の言葉が聞かれました。

表敬訪問では、奨学生一人ひとりが、市長に対して将来の夢や直方市への思いを伝えました。市長からは「皆さんがこれからも夢に向かって頑張ることを期待しています」と激励の言葉が贈られました。

明るい未来に向かって羽ばたく若者たち



いけばなフェスタで春を感じる

4月4～5日に、古町商店街の庚申庵をメイン会場として第13回商店街いけばなフェスタが開催されました。

同フェスタは商店街の活性化・文化交流を目的として毎春開催されています。小原流筑豊支部のメンバーによる桜やスイートピーを用いた作品等、約30点を展示。小学生や高齢者の作品も並んでいます。足達雨由支部長は「商店街の活性化とともに、一般の人にも花の素晴らしさを感じてほしいし、作品を広く見てもらいたい」と話しました。以前生け花教室に通っていたという女性は「商店街に来てみたらこの催しがあったので立ち寄ってみました。春らしい花が多く、素晴らしい作品ばかりですね」と楽しんでいました。

商店街にも春がきた



プロの手でかわいく変身

ハッピースクールヘアジャム開催

3月20日に、イオンモール直方で「ハッピースクールヘアジャム」が開催され、筑豊地区の美容室8店舗のスタッフが集まりヘアショーを行いました。ショーは「春・夏」「盛夏」「秋・冬」の3部構成で、美容師たちがそれぞれの季節に合った華やかな着付けやヘアメイクを施していきます。小学生・高校生のモデルたちがポーズを決めていくと、集まった観客から歓声が上がっていました。モデルを務めたのは各店舗の客ら24人です。

この催しは福岡県美容生活衛生同業組合青年部GROWTHの主催で、若い世代に美容の楽しさや嬉しさを体感してもらおうと企画しました。同青年部筑豊地区代表の川畑英幸さん（30）は「普段と違う娘さんやお孫さんの姿を見ることができて、保護者の皆さんにも楽しんでもらえたと思う。美容業界を目指している若者を始めとして、多くの人に美容への興味を持ってもらえれば嬉しい」と話しました。

美への飽くなき追求



登下校時の強い味方

防犯ブザーを携帯しよう

直方市社会福祉協議会は、市内の全4中学校で入学式を迎えた女子生徒217人に防犯ブザーを贈呈しました。市民が安心して暮らせる社会づくりの一環として同協議会が取り組んだ初の試みで、赤い羽根共同募金を活用して購入したものです。

ブザーはハート型で、ビーズ等で自由に飾り付けることができます。同協議会は「持ち歩きたいと思うように自分好みのデザインにして、高校生や社会人になっても引き続き防犯ブザーを携帯するきっかけにしてほしい」と話しました。

直方第一中学校では入学式後にブザーの贈呈式を実施。同協議会の古賀彰子副会長は「中学生になると環境が変わり、塾や部活動で暗くなって帰宅することが増えるため、防犯ブザーを携帯・活用してほしい」と告げ、代表の奥田来瞳さん（12）にブザーが手渡されました。

あなたの身近な存在に



須崎町公園の新しいシンボル

時計台お披露目

3月26日、直方ロータリークラブから須崎町公園に街頭時計が寄贈されました。時計の除幕式前にはロータリークラブの会員、大和青藍高校の生徒、市職員ら約100人が市内の清掃活動を行いました。この時計寄贈は直方ロータリークラブ60周年記念事業の一環です。以前からこの時計が壊れていることや、災害時に避難したときに時計が無くては不便だろうとの思いと、市民の意向を受けて地域に役立つものを贈ろうと企画されました。

同クラブ会長の小森恭一さん（65）は「史跡板の設置や遠賀川河川敷の桜植樹等、これまでも地域活性化のために頑張ってきた。今後も100周年を目指して市民とともに頑張っていきます」と決意を新たにしていました。続いて市長が「須崎町公園が市民の憩いの場となるよう努めていきたいと思います」と挨拶しました。除幕式を終え時計がその姿を現すと、集まった人たちから温かい拍手が起きました。

新しい時計が市民を見守ります



熱いお茶でホッと一息

老人ホーム慰問茶会

国際ソロプチミスト直方が、養護老人ホーム芳寿園で「老人ホーム慰問茶会」を開きました。毎春恒例のこの茶会が高齢者を励ますために始めたもので、約30年続いています。この日は68歳から97歳の50人の入所者たちに7人の会員が抹茶とお菓子を振る舞い、入所者たちはおいしそうにお茶をすすっていました。

この茶会の代表を務める田中久枝さん（86）は「一年に一回、皆さんに会えるのが楽しみです。入所者の皆さんも外出する機会が少ないですし、いつも喜んでくれています。今後も続けていきたいです」と話しました。79歳の入所者の女性は「とてもおいしかった」と笑顔を見せ、おかわりを頼んでいました。

一年に一回、再会のとき

